訪問看護 編

その人らしく、その家庭らしく、生活するための医療とケア

河北訪問看護・リハビリステーション阿佐谷

訪問看護師
菅野 都 さん

訪問看護とは…

病気や障害を持っていても、地域やご自宅でその方らしく生きていくことを支える看護

訪問看護とは、病気や障害をもっている方が住みなれたご自宅や地域で、その方らしい療養生活が送れるように支援するサービスです。地域の訪問看護ステーションから看護師が生活する場所へ訪問し、在宅医療のお世話や担当医の指示に基づいた医療処置、病状の観察、薬の相談・指導など看護ケアを提供します。

訪問時に持ち歩くカバンには、体温計、聴診器、血圧計、処置やケアに使う用品など盛りだくさん。今日も大きなカバンを持って元気に出発します！

訪問看護は生き方を尊重した生活に基づく看護

私は訪問看護師として、1日4～5軒のお宅を訪問し、1軒につき1時間程度の時間を使って、医師の指示による医療処置や在宅療養のお世話を行っています。ご利用者さんやご家族とじっくり向き合うことができるのも訪問看護の魅力。訪問は基本的にひとりですが、交代で複数の看護師が担当しています。そのため、私たちは毎日カンファレンスを行い、様々な視点から最適な看護をチームで考えています。

訪問看護は生活に基づいた看護。大切なのは、ご利用者さんの生き方、その方らしい生活を支えることです。寝たきりでも、できるだけ入浴をさせてあげたいご家族は多いです。安全に入浴介助できる手順を理学療法士と話し合う、必要な介護用品をケアマネジャーに依頼するなど、訪問看護師は多職種と連携して、その方の生活を大切にしながら医療マネジメントを行っています。「在宅に戻って良かった、ありがとう」と感謝の言葉を頂くとやりがいに繋がりますね。

自宅で最期を迎えたいと在宅療養を選択される方もいます。末期がんの女性は疼痛の管理、病状の緩和などの医療処置を行いながら、曾孫さんの遊ぶ声やご家族に囲まれ温かい時間を過ごされました。息を引き取られたお顔は穏やかな表情で、「笑っているみたいでしょ」と涙ぐむ娘さんの姿が忘れられません。ご家族の努力と療養を支える我々医療者が力を合わせることで、最期の瞬間までその方らしく過ごして頂けたと感動しました。

超高齢化社会を迎え、訪問看護師の役割は益々重要になってきます。訪問看護は人生の物語に関わることができる素晴らしい仕事。悩むこともありますが、仲間と一緒に生き方を支える看護を追及しています。

Hospital Data

〒166-0001
東京都杉並区阿佐谷北1-2-1 河北杉樹ビル1階（2019年3月南阿佐ヶ谷に移転予定）
TEL 03-3339-8236（代）
URL https://kawakita.or.jp/station

Hospital Information

当ステーションは、看護師・理学療法士が所属し、杉並区全域をカバーしています。さらに、病院や地域の窓口として活躍する社会福祉士・介護支援専門員などの各専門分野と連携し、生活のあらゆる視点からそれぞれに合わせ、統合された質の高い在宅医療・ケアを提供しています。

移動は電動自転車。杉並区全域が訪問エリアです。私たちの合言葉「その人らしく・その家庭らしく生活するための医療とケア」は私の目標です